

羅 針 盤			方 策		第1回 点検・評価		第2回 点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目	自己評価	外部アンケート等	自己評価	外部アンケート等	自己評価	外部アンケート等	総合		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①地域活性化プロジェクト「めぶく」に主体的に取り組んだと感じている生徒の割合が75%以上である。	A 88%	B 80%	A 95%	A 86%	総合 A	総合 A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探究の時間では生徒が主体的、協働的に活動に取り組んでいる。さらに主体性を高めるため、グループだけではなく個の探究を進める場面を設定したい。また、評価方法やフィードバックの方法を工夫し、生徒が成長を実感できる仕掛けしていく。</li> <li>習熟度別授業や、少人数授業については、学習効果を高めることができるような指導方法を工夫していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル教育を視点にした国際教育の観点を項目に入れると良い。</li> <li>総合的な探究の時間に生徒が主体的な取り組みをしており、自己有用感を得られたと外部アンケートで86%の回答を得たことは素晴らしい。</li> <li>また、少人数制の授業により思考・判断・表現力の向上を生徒が感じているという結果も、当初の目標に達していると思われ、貴校の取り組みが素晴らしい成果をあげられていることを高く評価する。</li> </ul>
		②習熟度別で履修をすることにより、生徒の75%以上が学習意欲が向上したと感じている。	A 88%	B 67%	A 87%	B 71%					
		③少人数制で履修することにより生徒の75%以上が思考・判断・表現力が向上したと感じている。	A 93%	B 72%	A 87%	B 75%					
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導を行っていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④学習に対する達成感や満足感をもっている生徒が75%以上である。	B 76%	B 68%	B 82%	B 69%	総合 B	総合 B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習意欲が高まるよう、観点別評価の方法を改善し、指導と評価の一体化をさらに推進していく。</li> <li>定期的な到達度テストを実施している。結果をさらに有効活用することで、自らの成長を認識し、より客観的に課題を把握できると考える。結果の活用方法を工夫したい。また、指導と評価の一体化を徹底し、生徒が達成感を感じられるようにしていく。</li> <li>学習時間調査を行っているが、十分な学習時間を確保できていない。進路実現に向けての出遅れが目立つ現状である。教員が共通認識の下で日々声掛けをし、生徒の意識を向上させなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標を持っている生徒は学習に積極的に向き合っている様子が見られる。いろいろな体験をさせて目標が見つければ自然と学習時間も増えるのではないかと。</li> <li>一人一人に応じた指導を行うことは非常に難しいと思うが、生徒との対話を通じ、評価差の圧縮に努めてもらいたい。</li> </ul>
		⑤「授業がわかりやすい」と評価している生徒が75%以上である。	B 83%	B 67%	A 95%	B 65%					
		⑥「授業を通して学力がついた」と評価している生徒が70%以上である。	B 74%	B 65%	A 85%	B 67%					
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦進路実現のために必要な学習時間が十分に確保できている生徒が75%以上である。	D 12%	D 44%	D 18%	D 49%					
		⑧いじめ防止対策委員会を年間10回以上開催する。	B 76%	A 92%	B 74%	A 90%					
		⑨盗難予防のために自転車やロッカーの施錠率が90%以上である。	A 100%	B 81%	A 100%	C 72%					
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導を行っていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑩学校は「学校いじめ防止基本方針」について、生徒に説明していると認識している生徒が90%以上である。	B 88%	C 75%	A 97%	C 67%	総合 C	総合 C	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止対策委員会については13回開くことができた。小委員会としての開催にもよるものが半数を占めたが、いじめとして認定されないものも認知し、対応策について共通認識をもって取り組むことができた。</li> <li>自転車については9割の生徒は施錠を行っている。残りの1割に対し繰り返し周知と指導を行ったがあまり成果があがっていない。ロッカーの施錠率は8割程度で同様になかなか改善されない。職員に協力を仰ぎ、年度初めに確認する等きめ細かい対応が必要である。</li> <li>いじめ防止基本方針の周知に向け、配信やHP掲載等を行ったが必要性を感じない方も多いため、周知方法に工夫が必要であると感じた。組織対応は、情報共有や記録の徹底など円滑に行うことができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マナーアップで登校の様子を見させてもらった時に朝から暗い表情で来る生徒を見かけた。先生からも声をかけてもらえるとうれしい。</li> <li>いじめ防止に向けて委員会を随時開催し、事前防止や早期対応に取り組んでいることは素晴らしい。いじめを防止するためには、教師と生徒の何でも相談できる人間関係の構築が大切だ。引き続き、教師と生徒、生徒同士が温かな関係を築き、生徒が楽しく学校生活を送ることができるように指導してもらいたい。</li> <li>項目「5」の自己評価と外部評価に差があるということが、隠れたいじめが存在していることに繋がっていないか心配する。</li> </ul>
		⑪学校と家庭の連携の中で、怠惰な遅刻がないと自覚している生徒が90%以上である。	A 95%	B 90%	A 100%	B 89%					
		⑫ゴミを分別し、学校内の美化を心がけている生徒が80%以上である。	A 95%	A 90%	A 92%	A 93%					
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導を行っていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑬「自己の生き方」と「将来の職業」との関連について考えている生徒が75%以上である。	B 76%	B 78%	C 61%	B 82%	総合 B	総合 B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究学習は、進路実現の際に有効な高校生活での一つの成果となっている。今後は探究にSTEAMの要素を取り入れ、様々な進路希望と探究を関連づけていきたい。また、職業理解や進路意識向上のためのインターンシップを企画していく。</li> <li>保護者が参加可能な進路講演会等を増やし、生徒だけでなく保護者へも進路情報を提供し、家庭での会話のきっかけを提供していきたい。</li> <li>進路通信や外部の教育機関活用に関する情報についてClassiで生徒保護者へ情報提供をしているが、それらの活用は不十分な状態である。配信のみにせず、必要に応じてホームルームや授業での教員からの声掛けをしていきたい。</li> <li>今年度より三者面談を夏休み前の実施に変更した。早い段階で保護者との協力関係を築き、学校と家庭が協力して生徒の進路実現に向かえるよう、面談の内容についても改善を図っていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験学習などにより自分の生き方を考える時間の確保を図り、自分に合った進路を選択できるように引き続き指導をお願いしたい。</li> <li>項目15の評価値が低いのは、進路に対するのんびり具合のあらわれでしょうか。</li> <li>OBで活躍する人の講演会等を通じ、卒業後の進路を考えるきっかけづくりに努めていただければありがたい。</li> </ul>
		⑭生徒の将来の志望について理解している保護者が75%以上である。	B 83%	A 87%	A 87%	A 91%					
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮進路通信や進路情報誌などを活用している生徒が75%以上である。	C 56%	C 57%	D 51%					
	⑯進路実現に向けた指導に満足している生徒が75%以上である。		B 78%	B 77%	A 87%	B 73%					
	⑰学校のWebページや連絡メールで学校の情報を確認している保護者が80%以上である。		B 79%	B 86%	B 87%	A 91%					
	V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱保護者が来校できる行事が年2回以上実施されていることを認識している保護者が80%以上である。	A 95%	B 80%	B 85%					
⑲授業や家庭学習においてChromebookを活用させる教職員の割合が75%以上である。			B 79%	B 79%	B 82%	B 81%					
⑳ICTを活用した授業や探究学習に満足している生徒が75%以上である。			A 88%	B 84%	A 89%	B 80%					
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉑学校行事の出欠確認や各種調査への回答および集約が便利になったと感じている生徒・保護者・職員の割合が80%以上である。	B 76%	B 86%	A 100%	B 86%	総合 B	総合 B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタディサプリ、Classi Noteに加え、小テストやグループワーク、英語のリスニング教材として幅広くChromebookを活用しており、生徒の取り組みも良い。今後はChatGPT等の生成AIの利用方法についても指導するとともに、教育活動へも有効活用していくことが求められる。</li> <li>ICT機器の利活用による各行事の申し込みや調査については概ね順調であり、保護者からの回答状況も良好である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの活用についてアンケートでは、生徒の学習や先生方の業務改善に良い結果が見られるので、ICTをうまく活用していただけるようにご指導をお願いしたい。</li> </ul>
		㉒ICTを活用したアンケートに回答している生徒・保護者の割合が90%以上である。	A 95%	A 95%	A 95%	A 93%					
		㉓学校行事への参加申込みや各種調査をGoogle forms等を利用してオンラインで行い、提出および集計作業を軽減する。	B 76%	B 86%	A 100%	B 86%					
		㉔アンケート実施のお知らせや回答方法を連絡メールやClassiで送信し、周知徹底を図る。	A 95%	A 95%	A 95%	A 93%					